

日本キリスト教団 清水ヶ丘教会

まじふ

Vol.11 No.2

2014.8.3

「わたしは神が宣言なさるのを聞きます。主は平和を宣言されます。御自分の民に、主の慈しみに生きる人々に。彼らが愚かなるまいに戻らないように。」

詩編八五：九

中島 聡 牧師

《自己紹介の続きです》

前号ではしよった部分を少し続けます。私は、中学校は大阪・河内長野市にある清教学園に、高校は滋賀・近江八幡市にある近江兄弟社学園に進みました。ミッション・スクールにあつて、建学の精神・学園訓、「神なき教育は知恵ある悪魔をつくる」、「イエス・キリストを模範とする人間教育」、「地の塩、世の光たれ」と、七年間（この部分はまた後ほどお話しします）教えていただきました。反抗期も暗闇の時もありましたが、イエス様はいつも私を「キリストの薫」で包んでくださり、献身へと導いてくださいました。

後述しますが、イエス・キリストの愛と恵みを、また時に厳しさと戒めを、身をもって子ども達、青年に教えるミッション・スクールの大切さを痛感しています。

《福音伝道のビジョン》

さて、清水ヶ丘教会に遣わされ四ヶ月目。沢山のお祈り、ご祝辞・ご祝意を賜って就任式も無事に執り行うことができました。いよいよ清水ヶ丘教会を通して、福音宣教に仕えて参りたいと願います。

第一に、絶対的に、まず「礼拝」を通して福音を伝えたいと願います。「豊かなる礼拝」、これなくして福音も伝道ありません。「豊か」とは、①「創造主なるイエス・キリストの愛と恵みが満ち溢れている礼拝」、②「多くの人々が招かれ、集うことができる礼拝」、③「多くの人が招かれ、集うことのできる礼拝」、④「多くの人が招かれ、集うことのできる礼拝」と、いうことです。①は、式順で言うと、奏楽、御言葉、讃美、祈り、説教、聖礼典、献金、祝祷によつて現されます。これらは牧師、役員、信徒が共に祈り、共に学び、豊かな礼拝を実現していくことができます。では、②です。イエス様が多くの人々を招かれたように（『給食の奇跡』では数万人に及ぶ）、教会の門を開き、まだ福音を知らない人々が礼拝に招かれ、集うことによつて現されます。これらは、牧師、役員、信徒が共に祈り、呼び掛ける、まさに「伝道」によつて豊かな礼拝を実現していくことができるのです。

《清水ヶ丘チャーチ・ゴスペル・クワイア》

①は十分に練り上げられてきました。これからは②のために、まず一つ。教会の門を開き、最終的に礼拝に多くの人々が集うことができるように、ゴスペル・クワイアを立ち上げます。なぜゴスペルなのか。別頁「ゴスペル・クワイアQ&A」で詳しくお話ししますが、一言で言うと、「主イエス・キリストの愛と恵み、その救いを宣べ伝えることができる本物のゴスペル」が日本に誕生したからです。聖書そのものを歌詞として楽曲を編み上げ、全国各地でクワイアを指揮するプロのゴスペルピアノ・プレイヤー栗野貢司、ゴスペル・シンガー栗野めぐみ夫妻

（東京ホライズン・チャーチ）が伝道のためのゴスペルを讃美できるように献身されたからです。二つ目はまた次回にして、主のメッセージを分かち合いたいと思います。

《平和のためにも福音伝道は急務》

私たちの国が大きく方向転換しようとしています。八月一五日を過ぎると戦後七〇年目を迎えることとなります。公教育の現場で、子ども達に「平和」を教える先生の中で、もはや実際に戦争を体験したという人が一人もいなくなつて一〇年ぐらい経っていることです。戦争の本当の悲惨さを、身をもって話せる人がいないのです。

教会はミッション・スクールとしても、子ども達、また保護者に「主の平和」を伝えていく使命を帯びていると痛感させられます。かつては数々の大義が美辞麗句のように並べ立てられ、やがて戦争に引きずり込まれていき、数え切れない命を奪い、奪われることになりましたが、イエス様は二〇〇〇年前も、そして今も、私たちに真つ直ぐに語られます。「平和を実現する者は幸いである。」（マタイ五：九）。憲法九条、マタイ福音書・山上の垂訓九節。「これを目指すか？これを守るか？」と胸に響きます。愚かな振る舞いによつて「剣を取る者は皆、剣で滅びる」（マタイ二六：五二）となりませんように、次世代の命を守っていくことができますように、平和を宣言される主を宣べ伝えて参りましょう！